

# めぐみイエス・キリスト教会

2024年7月14日(日)第二主日礼拝

午前10時より

週報「通算第715号」



2024年標題聖句

マタイの福音書第6章33節

《まず神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはすべて、それに加えて与えられます。》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実  
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

## ◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌258「墨よりも黒き我なれど」 p. 402

【交読文】 No.44 詩篇第139篇 p. 913

【賛美Ⅱ】 新聖歌198「God Bless You」 p. 294

【使徒信条】

【主の祈り】

【前回説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナル曲「あなたと共にいつまでも」

【聖書朗読】 ルカの福音書6章6節～11節(新約p. 120)

【礼拝説教】 《愛の人・主イエス》

【聖餐式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌165「栄光イエスにあれ」 p. 236

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

### ※本日の聖書箇所(ルカの福音書6章6節～11節)

6:6 別の安息日に、イエスは会堂に入って教えておられた。そこに右手の萎えた人がいた。

6:7 律法学者たちやパリサイ人たちは、イエスが安息日に癒やしを行うかどうか、じっと見つめていた。彼を訴える口実を見つけるためであった。

6:8 イエスは彼らの考えを知っておられた。それで、手の萎えた人に言われた。「立って、真ん中に出なさい。」その人は起き上がり、そこに立った。

6:9 イエスは彼らに言われた。「あなたがたに尋ねますが、安息日に律法にかなっているのは、善を行なうことですか、それとも悪を行なう

ことですか。いのちを救うことですか、それとも滅ぼすことですか。」  
6:10 そして彼ら全員を見回してから、その人に「手を伸ばしなさい」と言われた。そのとおりにすると、手は元どおりになった。  
6:11 彼らは怒りに満ち、イエスをどうするか、話し合いを始めた。

### ●ポイント1.「マタイにおける平行記事」から？

#### ※マタイの福音書12章9節～13節「ここだけのたとえ」(新約p.22下段)

12:9 イエスはそこを去って、彼らの会堂に入られた。

12:10 すると見よ、片手の萎えた人がいた。そこで彼らはイエスに「安息日に癒やすのは律法にかなっていますか」と質問した。イエスを訴えるためであった。

12:11 イエスは彼らに言われた。「あなたがたのうちのだれかが羊を一匹持っていて、もしその羊が安息日に穴に落ちたら、それをつかんで引き上げてやらないでしょうか。

12:12 人間は羊よりはるかに価値があります。それなら、安息日に良いことをするのは律法にかなっています。」

12:13 それからイエスはその人に「手を伸ばしなさい」と言われた。彼が手を伸ばすと手は元どおりになり、もう一方の手の様に良くなった。

### ●ポイント2.「マタイにおける羊」とは？

#### ※ヨハネの福音書10章14節～15節「私は良い牧者」(新約p.202下段)

10:14「私は良い牧者です。私は私のものを知っており、私のものは、私を知っています。

10:15 ちょうど、父が私を知っておられ、私が父を知っているのと同じです。また、私は羊たちのために自分のいのちを捨てます。」

### ●ポイント3.「立って真ん中に出なさい。手を伸ばしなさい。」とは？

#### ※申命記11章27節「祝福の法則とは」 (旧約p.336上段)

11:27 祝福とは、私が今日あなたがたに命じる、あなたがたの神、【主】の命令に聞き従った場合である。

## ◎前回の礼拝メッセージ【安息日論争】

《安息日の集会に出席された主イエスと弟子たちが麦畑を歩いていたときのことです。弟子たちは、麦の穂を摘んで、手でもみながら、食べ始めたのです。それを見ていたパリサイ人たちが言いました。

「なぜあなたがたは、安息日にしてはならないことをするのですか。」

ミシュナによりますと、弟子たちが穂を摘むことは「収穫」に当たり、手でもむことは「打穀」に当たると言うのです。主は答えとして、パリサイ人たちが良く知っている「ダビデの逃避行」の場面を話されました。

これは、ヨナタンが父サウルのダビデに対する憎しみと殺意を確信した時に、ヨナタンは弓矢によって、そのことをダビデに伝えます。

この後ダビデは、ギブアからベツレヘムの中間にある「祭司の町ノブ」の祭司アヒレメクの所に行きます。ダビデと部下たちは、祭司だけが食べることの出来る「聖別されたパン」を分けてもらったのです。

主イエスは、律法にも緊急の場合には、例外が存在することを教えています。そして主は、パリサイ人たちに言われます。

「人の子は安息日の主です。」

この言葉こそ、ご自身が誰であるのかを、彼らに明確にされたのです。十戒を、そして安息日を定めたのは、ご自身であることを彼らに示されたのです。ここで主は「人の子」という言葉を用いていますが、これはダニエル書に書かれ、パリサイ人たちは、誰もがその意味を知っています。なぜなら、彼らは旧約聖書に通じていたからです。

イザヤは、『「見よ、私はシオンに、選ばれた石、尊い要石を据える。この方に信頼する者は決して失望させられることがない。」』と書き記しています。安息日は、主イエスが、人の為に定められたものです。この日は、主なる神様に感謝し、賛美と礼拝を捧げ、心休める時を、主の臨在と平安の中で過ごす為にあるのです。いつも忙しく動いている、私たち日本人は、もう一度よく考えて見たいと思います。》

## お知らせ

※次回7月21日(日)第三主日は通常通り10時から行ないます。